

全学生を対象とした総合キャリア教育の展開

－スキルアップサイクルを利用して基礎学力・専門性を高める総合キャリア教育の実践－

申請者 林 昌孝

取組の概要（*400字以内）

本取組は、現代の若者に欠如しがちとされるコミュニケーション能力や社会性・主体性を培い強化することで、専門領域の勉学をより効果的にするための教育プログラムである。基礎能力を前提としてはじめて、大学での専門教育も効果を発揮するし、その専門性を社会で発揮することも可能であり、その涵養と強化はいまや、高等教育に不可欠の要素である。その仕組みは、「客観的自己分析」→「学びの興味や価値の確認」→「主体的な能力向上」を核とするスパイラルをたどることにより、コミュニケーション能力と社会性を身につけ、専門教育への主体的取組を促すよう計画されている。具体的には、入学前教育から卒業までの期間に3回転するスキルアップサイクルで構成されており、学生全員が受けるキャリアカウンセリングが常にサイクルの起点となっている。単位を付さない正課外教育と、正課教育との相乗効果をもたらす、総合的なキャリア教育である。

（取組の概要文字数： 393字）

キーワード：基礎能力、主体性、入学前教育、自己分析、スキルアップサイクル

申請にあたって

平成17年に松本大学は総合経営学部の1期生を送り出した。94.0%の就職率（就職内定者÷就職希望者）であった。昨年度は、95.0%の就職率を確保することができ本学としては「学生、後援会、松商学園にとってほぼ満足がいく結果」が得られたとの判断にたっている。就職委員会としては、松本大学の設立時より「卒業生全員が満足のいく就職活動を支援する体制づくり」という就職指導の理念を実現すべく、就職指導の実施内容と実施体制を模索し、試行錯誤してきた。本活動は、言い換えると申請書の副題にもあるように「基礎学力・専門性をより高めながらキャリア教育を総合的に推進する活動」であったと考えられる。入学前教育から学年毎の就職支援活動については、スケジュールと内容については一段落したかの様な印象もあり、本学のキャリア教育活動を申請書の内容としてまとめたものである。

今日のキャリア教育は、松商学園短期大学時代から半世紀以上にわたって築き上げてきた就職支援活動の上に成り立っていることは言うまでもないが就職環境、つまり企業をめぐる経済環境と雇用の形態、学生の職業観や就職活動へ臨む意識や姿勢、キャリアセンターの支援体制の変化等は今後も激しさを増していくであろう。これからもこのような変化に対応できるフレキシビリティを持ちながらキャリア教育を進化発展させていきたいと考えている。

申請書をまとめるにあたって、青島金吾氏、澤田和美氏、小野やよい氏はじめキャリアセンターのスタッフの皆さんには貴重なアドバイスと協力をいただいた。これまでの就職支援活動の総括、振り返りと課題の整理が出来たことを感謝します。

1 取組について

(1) 取組の趣旨・目的

① 取組における学生教育の目標や養成する人材像について

松本大学は、「地域社会で活動し、活力ある地域社会の創造に資する人材の養成」を教育目標に掲げ、総合経営学部においては、総合的な組織運営能力を養成し、実践的能力を向上させる教育を行っている。アウトキャンパススタディ（学外での実地体験授業）や教育サポーター制度（授業で地域の人材を活用）など、地域と連携することで、地域社会に貢献しうる実践的人材の養成を実現しようとしており、地域の教育力を効果的に活用している。

しかし、理論と実際をバランスよく習得できるようカリキュラムが編成されているにもかかわらず、本学部における教育は未だ完成していない。その主たる原因は、学生のコミュニケーション能力・社会性・主体性といった基礎能力の不足にあり、本学の教育目標を十分に達成するには、これら基礎能力を強化しながら専門性をも培う教育を実現しなければならない。殊に、授業の一環として学生が地域社会の人々と恒常的に接している本学部の場合、実地体験の効果をあげるためにもかかる基礎能力は決定的に重要である。

② 設定する学生教育の目標や養成する人材像のニーズについて

無業者、フリーター、高い失業率・離職率といった若年者問題を前に、大学においても職業観づくりや自立能力向上のための方策を教育に盛り込むことが要請されている。本取組は、かかる現代的課題に応えるものでもある。

本取組が設定する教育目標のひとつは、広い意味でのコミュニケーション能力と社会性を育成し、そのうえで一定の主体性を引き出し、それらを通じて人格形成を行うことにある。いわば人間力の強化であり、かかる人間性を土台として地域社会に貢献しうる専門性を養うことがもうひとつの目標となる（図1）。

この取組においては、まずもって学生が能動的に参加する必要がある、プログラムが機能するか否かは、学生が目的意識をいかに持つかにかかっている。そのためには、大学生活を入学前の早い時期から卒業までをトータルに捉えて学生を支援していく仕組みが必要となる。大学生活のスタート時点で、基礎能力養成の前提となる苗床が用意されねばならない。本学部では、入学が決定した学生から順次、入学前教育の一環として綿密なキャリアカウンセリングを実施し、大学生活にける目標の意識付けにつなげようとしている。

本学部における基礎能力の育成は、学生が3度にわたり繰り返すスキルアップサイクルを中核として組み立てられている。い

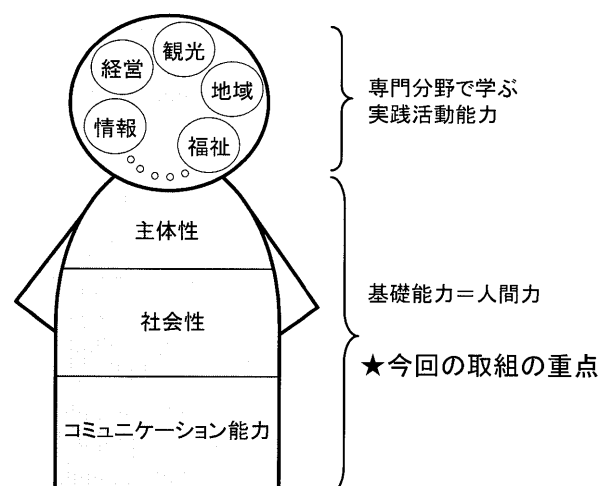


図1 目指す人材像

ずれのサイクルも、全学生が個別に受けるキャリアカウンセリングが起点となり、カウンセラーに対し自分を語るにより、振り返りの作業が開始される。そのうえで自己のそれまでを評価し、目標を再設定することになる。そのことが、さらなる能力向上のためのチャレンジへとつながり、正課教育として設定されて

いる実践的授業を通じてスキルアップがはかられる仕組みとなっている（図2）。本学部の教育プログラムでは、学生に方向性により科目選択の余地もあり、この過程はスキルアップをはかるための自己管理サイクルという特徴を持っている。まさしく、本学が教育目標とする人材像を実現するための総合的なキャリア教育である。

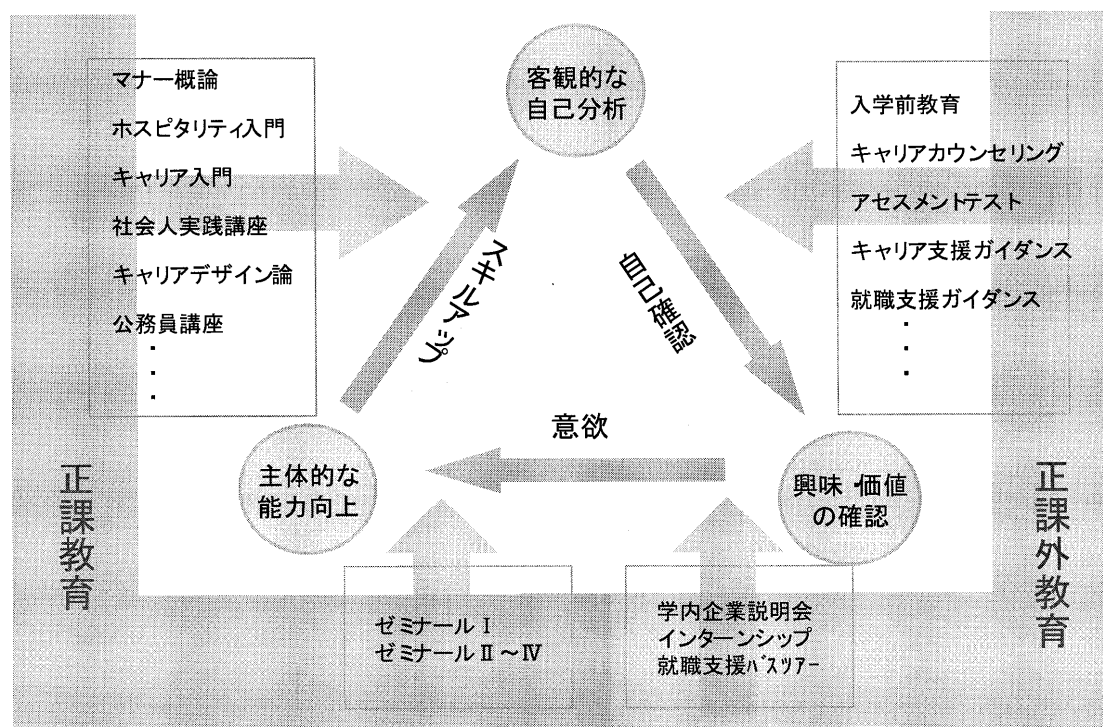


図2 人間力向上のためのスキルアップサイクル

③ 取組が求める成果、効果等について

キャリアカウンセリングを通じて学生は、前向きな思考→大学の一員である自覚→教職員との良好な関係、という道筋を経て、必ず教職員と挨拶を交わすようになった。このことは、本取組の有効性を暗示する端的な成果であった。学内に入出入りする学外者に対しても皆が挨拶をする本学部の雰囲気には、地域から賞賛の声が多数寄せられている。

本取組が目指しているのは、このような生活上の基本をクリアーしながら学生の社会性と主体性を高め、そのことを通じて効果的に専門性を身につけられるようにすることである。これにより、コミュニケーション能力と社会性を備え、意欲を持って地域社会で活動する人材の育成が期待できる。

(2) 取組の実施体制等

① 取組の趣旨を踏まえた目的を達成するための教育課程、教育方法等について

本プログラムの3つのサイクルは、いずれも3段階のステージで構成されている。概ね、第1ステージは正課外教育であり、第2ステージはコミュニケーション能力と社会性を身につけるための正規科目、そして第3ステージが正規の専門科目からなっている。

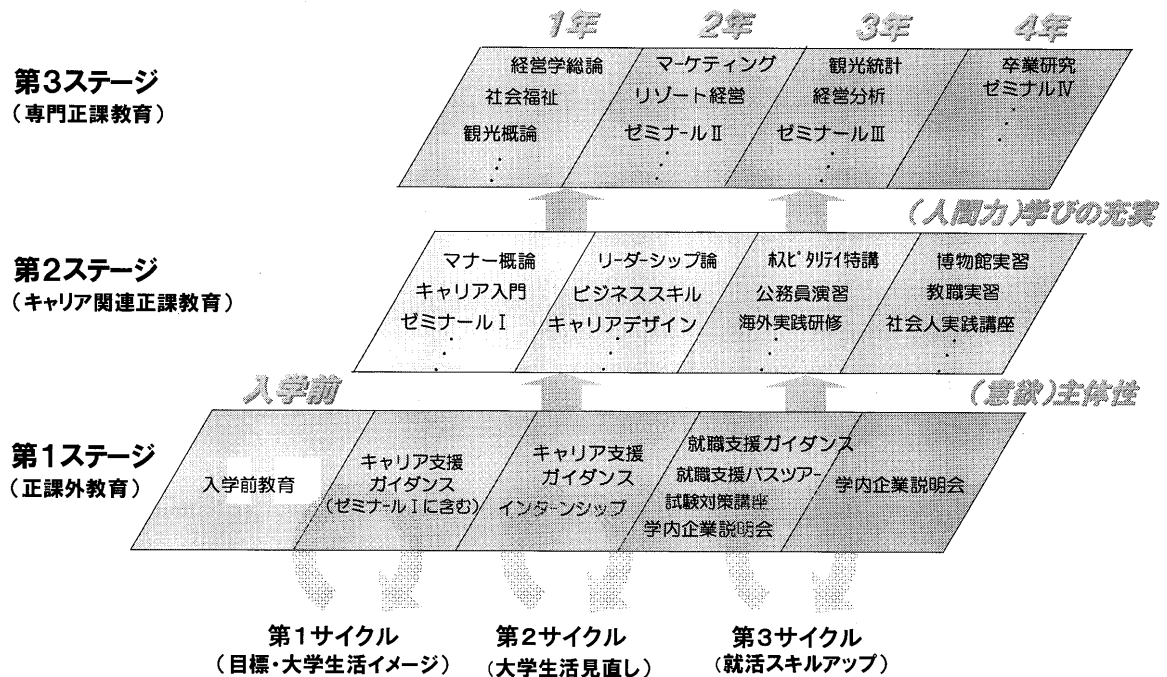


図3 総合的キャリア教育の構成

第1・第2ステージの内容を基礎に第3ステージは、意欲を持って受講することで学びの充実を実感できるよう設計されており、かかるサイクルを螺旋状に辿ることで、基礎能力と専門性をバランスよく兼ね備えた人材が養成されることになる(図3)。

a) 第1サイクル

第1サイクルでは、入学前のキャリアカウンセリングで始まる自己分析と興味・価値を確認する作業が、正課外教育として実施される。高校段階までの学びや生活の評価と確認を十分に行ったうえで大学での目的意識を確認し、意識付けを明確にして次の第2ステージへ進む(時期は1年前期)。ここでは、大学生生活に慣れ、学びや生活・友人関係などの不安を解決することを念頭に置いた正課の科目群が用意されており、第1ステージでそれなりに醸成された主体性の芽が枯れないように配慮されている。同時に、マナーやホスピタリティ関連の授業を配置することで、コミュニケーション等の基礎能力を育成する教育が施されるのである。キャリア形成にも関連する専門的科目群で構成される第3ステージを経る過程で学生は、専門分野の土台を固めることとなる。

b) 第2サイクル

こうして1年次で基礎能力の土台を形成した後、2度目のキャリアカウンセリングが第2サイクルへの入り口となる。ここでも、第1サイクルと同様の作業を経て、第2のステージが始動する。リーダーシップ論や社会教養・ビジネススキルなど社会性を身につけるための正課教育がなされるが、第1ステージより実践的な内容となっている。第2サイクルは、基礎能力養成を組み込みながら、第2ステージから第3ステージにかけて、社会性を涵養する教育から専門教育へのスムーズな流れができるように科目が配置されている。

c) 第3サイクル

3・4年次に設定されている第3サイクルも、キャリアカウンセリングで始まる。その第2・第3ステージには、進路や就職のためのスキルアップを目的とした科目が置かれ、社会での実践の準備が整うように設計されている。

本プログラムにおいて、スキルアップサイクルの基幹をなす取組の概要は、以下のごとくである。

入学前教育

本学でのカレッジライフを体験して大学生活への目的意識を持たすために設けられた、正課外の導入教育である。入学前の1月から実施される。

第1回目の集合セミナーでは、高校生活などこれまでの体験の振り返りと大学生生活の目標と目的を考え、意見交換をグループワーク形式で行う。意見交換の取りまとめに際しては、在学生在が各グループに加わり、体験談を織り交ぜながら取りまとめの支援をしている。本学部学生がここに参加することは、彼ら自身にとってもスキルアップに向けたチャレンジの場であり、入学前教育を受ける高校生がリラックスして自己を語る格好の雰囲気作りにもなっている(資料1)。

第2回目の個別キャリアカウンセリングは、一人40分程度行われる。カウンセラーとの面談を通じて、自己分析・主体性の醸成・目標設定を整理する過程である。キャリアカウンセリングの結果は、報告書として記録が残される。キャリアセンターと学生課・教務課で情報を共有し、学生指導のための資料として利用される(資料2、資料3、資料4)。

第3回目のガイダンスでは、教務を中心とする履修方法等の説明が行われる。

ゼミナールI (1年次)

1年次生対象の必修科目。履修登録相談、学生自治会や大学祭などへの参加指導、レポートや報告書など学習方法の指導、2年次以降の専門ゼミナールへの移行指導を狙いとしている。30人程のクラス形式に編成されており、大学生活をスムーズにスタートさせることを第一の目的としている(詳細は、P8の実施計画に記載)。

キャリア支援ガイダンス (2年次)

2年次生対象の正課外教育。学生が出席しやすいよう時間割内(水曜日3時限)にコマが確保されている。キャリアデザイン、自己理解、仕事理解、コミュニケーションについての講座が組み込まれている。就職予定学生の報告会や若手社会人の講演も行っている。学生生活に関する講演会・イベント企画、学生自治会と連携しての大学祭・スポーツ大会等に関する討議も行われ、コミュニケーション能力・社会性を実践的に培う場となっている(詳細は、P8の実施計画に記載)。

就職支援ガイダンス (3年次)

キャリア支援ガイダンスと同様、時間割内(水曜日4時限)に設置されているが、正課外教育として位置づけられる。3年次生を対象としている。就職に関する自分の考え方に関する発表会と業界・仕事の研究講座等があり、自己表現のスキルアップのために、就職内定した4年次生がリーダーとなりグループ討議と報告会をおこなう(詳細はP9の実施計画に記載)。

個別のキャリアカウンセリングは秋期に行われ、就職活動に向けての意欲や興味、具体的な就職先等についてカウンセラーと十分に相談し、就職への意識付けを促す機会としている。同時に、就職スキルを強化するためのビジネスマナーや文書コミュニケーション(外部業者に依頼しての添削を含む)も行っている。

8月下旬には、1泊2日の就職支援バスツアーを実施している。企業の人事担当者との模擬面談、模擬集団面接を体験させ、それまでのキャリア講座の整理と確認をすることとなる(資料5、資料6)。本学部に各企業の人事担当者を集めて実施される学内合同企業説明会も年3回実施し、個別企業説明会はさらに頻繁に行われている(資料7)。

社会人実践講座 (4年次)

4年次後期の正課科目(必修選択)。「ワークインフォメーション」「社会人になるために」「観光産業カレッジ」の3科目が中心である。職場で卒業生が直面しそうな問題や課題を中心に、人事労務分野、一般企業分野、観光サービス分野にわけて講義を行っている。「実社会で使える」をモットーに、社会で実際に役立つノウハウや体験談を中心に構成されている。

② 取組の実現に向けた実施体制について

取組実現に向けた教員・職員の体制 就職委員会（教員）4名、キャリアセンター（職員）7名。就職委員の半数は、学生委員会・教務委員会を兼務しており、各委員会とキャリアセンターが連携をとって活動できるよう配慮されている。

対象となる学生数 各学年約160～200名（全学生数780名）

その他支援体制

- ・キャリアカウンセリングは、1学年約200名の学生に対して卒業までに3回実施される。外部のキャリアカウンセラーは40名、年間延べ120人体制となる。
- ・企業人事担当のガイダンス協力人数… 30人/年間
- ・在校生のガイダンス協力人数 … 35人/年間
- ・卒業生OB・OGのガイダンス協力人数… 2人/年間（第1期卒業生のみ）

③ 取組における大学等としての創造性又は新規性について

第一に、教育課程の科目群を3つのステージに分け各ステージ毎に学生の主体性を引き出しつつ動機付けを行う仕組みは、創造性と新規性を兼ね備えている。第二に、人間力の強化と専門性の付与を目的としたスキルアップサイクルを3回実施している点は、より確実な効果に結びつき、創造性ある取組となっている。さらに、入学前から卒業までの期間を対象にした、長期的・総合的なキャリア教育プログラムであるばかりでなく、その過程に在学生も参加する場面があり、基礎能力と社会性を鍛錬する機会となっている点も、大きな特徴である。

(3) 評価体制等

正課教育の評価体制は、学内のFD委員会が中心になって全ての科目に対して前期・後期終了時点で学生の授業評価アンケート、担当教員の授業自己評価と学生の授業評価との比較による所見コメント等をまとめて報告書を作成している。

入学前教育・キャリア支援ガイダンス・就職支援ガイダンス等については講座終了時にアンケートをとる。また卒業時に、大学生活全体についての学生アンケートを実施している。内部の自己点検評価として、就職委員会及びキャリアセンターについては計画、成果、問題点と対策、課題について整理してまとめ、報告書を作成する。

企業説明会等ではそのつど企業担当者に開催目的と実施状況、学生の対応、要望等のアンケートをとり、次の開催に向け就職委員会で改善・見直しを行いながらすすめている。

(4) 教育改革への有効性

① 取組における教育課程、教育方法等の創意工夫について

基礎能力の養成は、挨拶・態度、場合によっては服装など生活習慣の問題すら含んだ教育となるため、通常の「授業」の形態を超えた方策が必要であり、教員以外の専門家の能力を活用している。

② 取組における実施体制等の創意工夫について

就職委員会とは別にキャリアセンターを設けることで、これまで就職との関係でのみ構想されていた基礎能力の養成を、目的意識形成との関係に転換した。入学予定者を含む全学生対象のキャリアカウンセリングは、学生をマスとしてではなく個別に捉える大きな契機になっている。

教職員ではない専門カウンセラーによる面談は、教職員が学生の感情・感性を認識するための重要な情報を提供することを通じて、正課教育をより効果的ならしめている。

③ 取組により期待できる成果等の教育改革への有効性について

基礎能力をもとに専門性を発揮しうる人材の養成は、地域社会への単なる労働力供給とは異なり、真の意味で、地域貢献のモデルとなる。コミュニケーション能力・社会性・主体性を重視した本学部での取組は、総合的教養教育のモデルたり得る。

(参考)

① 取組に関連する今日までの教育実績

本取組において就職は、基礎能力や人間性を育む教育の重要な成果・結果として位置づけられている。平成18年度の就職率と実施された主な科目の出席率は以下の通り。

平成18年度就職率	95%
入学前教育	86%
就職支援ガイダンス	65%
就職支援バスツアー	73%

② 実施体制等の今日までの経緯

理論と実際のバランスを重視し、独自の教育方法を活用した本学部の教育が実際に効果をあげていることは間違いなく、地域社会のあらゆる分野で本学部の卒業生は受け入れられている。その点では、本学部の教育は一定の評価を得ているとはいえ、教育目標の"第一段階的達成"に過ぎないと我々は認識している。「もっと学生にやる気があれば」「学生が地域の人々ともっと踏み込んだ交流ができれば」「学生がもっと大人であれば」という気持ちを教職員全体が持っており、漠としたフラストレーションを抱えていた。

かかる状況を打破しさらなる教育の充実を求めて、教授会・FD関連等の会合を数多く重ねた結果、コミュニケーション能力・社会性・主体性といった基礎能力を重視しそれを高める教育を強化しなければ、さらなる教育の進展は望めない、との結論に至った。いわゆる人間力を高める必要があるとの認識である。

(様式3)

2 取組の実施計画等について

全体の構成は図3に示したので、ここでは主な科目の年次ごとの実施計画の日時、内容、担当等を示す(シラバス及び学生配布資料からの抜粋)。

ゼミナールⅠ(1年次)の実施計画(平成19年度実施前期分)

(火2限) 前期			(場所)	(実施担当)
1	4/10	顔合わせ・履修相談他	ゼミ別	ゼミ担当・教務
2	4/17	役員選出と自己紹介	ゼミ別	ゼミ担当
3	4/24	キャリアアセスメントテスト	全体	キャリアセンター
4	5/8	交通安全講習会	全体	学生委員会
5	5/15	総経学部スポーツ交流会名簿作成	ゼミ別	ゼミ担当
6	5/22	総経学部スポーツ交流会	全体	学生委員会
7	5/29	健康講演会	全体	学生委員会
8	6/5	レポート作成指導	ゼミ別	ゼミ担当
9	6/12	レポート作成指導	ゼミ別	ゼミ担当
10	6/19	レポート作成指導	ゼミ別	ゼミ担当
11	6/26	キャリアアセスメントテスト結果講演会	全体	キャリアセンター
12	7/3	レポート作成指導	ゼミ別	ゼミ担当
13	7/10	大学祭説明会	全体	学生委員会
14	7/17	(必要ならば)夏休み中の宿題	ゼミ別	ゼミ担当

キャリア支援ガイダンス(2年次)の実施計画(平成19年度実施前期分)

(水3限) 前期			(場所)	(実施担当)
1	4/11	スケジュール説明	全体	キャリアセンター・学生委員会
2	4/18	交通安全講習会	全体	学生委員会
3	4/25	(休講)	—	—
4	5/9	スポーツ交流会説明会	全体	学生委員会
5	5/16	(5/22スポーツ交流会)	全体	2年参加
6	5/23	(休講)	—	—
7	5/30	(休講)	—	—
8	6/6	キャリアデザイン1	全体	キャリアセンター
9	6/13	キャリアデザイン2	全体	キャリアセンター
10	6/20	(休講)	—	—
11	6/27	(休講)	—	—
12	7/4	自己理解1	全体	キャリアセンター
13	7/11	自己理解2	全体	キャリアセンター
14	7/18	大学祭説明会	全体	学生委員会

就職支援ガイダンス（3年次）の実施計画（平成19年度実施前期分）

（水4限） 前期			（場所）	（実施担当）
1	4/11	アセスメント実施	全体	キャリアセンター
2	4/18	自分のキャリアをデザイン	全体	キャリアセンター
3	4/25	自己分析①（就職活動における自己分析とは？）	全体	キャリアセンター
4	5/9	自己分析②（アセスメント結果解説、自己の振り返り等）	全体	キャリアセンター
5	5/16	自己分析③（実際に自己PRを作ってみる）	全体	キャリアセンター
6	5/23	自己PR発表会（自分のことを人に伝える）	全体	キャリアセンター
7	5/30	筆記試験模試（START）	全体	キャリアセンター
8	6/6	やりたい仕事の探し方（仕事研究の手順など）	全体	キャリアセンター
9	6/13	仕事研究（若手社会人の話を聞いて考える）	全体	キャリアセンター
10	6/20	「やりたい仕事」について考え、整理する	全体	キャリアセンター
11	6/27	「やりたい仕事」について、文章で表現する	全体	キャリアセンター
12	7/4	「やりたい仕事」発表会（自分のことを人に伝える）	全体	キャリアセンター
13	7/11	履歴書作成指導	全体	キャリアセンター
14	7/18	夏季インターンシップ 募集説明、バスマー-募集説明など	全体	キャリアセンター

（夏休み中 就職支援バスツアー）

これまでのキャリア教育の取組と今後の展開を以下に示す。

年度	取組の内容
平成14年度（開学）	「インターンシップ」スタート
平成15年度	「就職支援ガイダンス」スタート 「キャリアカウンセリング」スタート
平成16年度	「就職支援バスツアー」スタート 「学内企業説明会」スタート
平成17年度	「入学前教育」スタート、全学生1年に1度のC.Cスタート
平成18年度	「キャリアセンター」の設置 「インターネットによる就職試験対策」スタート 「インターネットによるキャリアカウンセリング」スタート
平成19年度	「キャリア支援ガイダンス」開講 「社会人実践講座」開講
平成20年度	「入学前教育」の充実 「学内就職情報ネットワークシステム」スタート 「学生によるジョブサポーター（就職支援相談員）」スタート
平成21年度	「学内就職情報ネットワークシステム」の充実 「学生によるジョブサポーター」の充実 「社会人の再教育（資格取得講座）」講座スタート

入学前教育等については、「3 データ、資料等」に示す。

なお、取組期間終了後も継続的に取組む計画である。その際は、自己負担にて実施する。

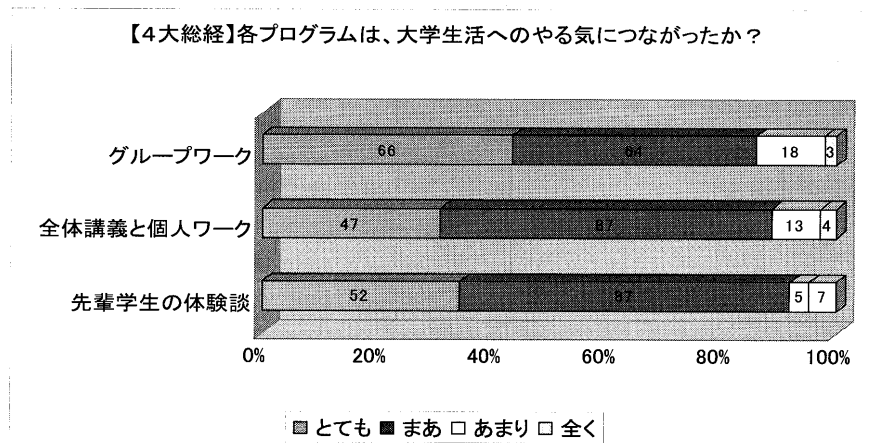
3 「データ、資料等」

資料1 (入学前教育の内容と受講学生アンケート結果 平成19年度実施分)

『入学前教育』プログラム全体像

	形式	内容	担当	実施時期
第1回	集合セミナー (計2.5時間) ・先輩の大学生活体験談 ・セルフワーク ・グループワーク (4大は学科別のグループ) まとめ(講義) 10:00~12:30 短大 14:00~16:30 4大	①大学生活をイメージする。 ～先輩の体験談を聞いて考える * 学業、自治活動、サークル、アルバイト、友人作りなど前向きに学生生活を過ごした先輩達による、パネルディスカッション ②今までの経験を振り返りと、大学生活の目標・目的を考える。 ③考えたことを、周囲の人と意見交換する。 ④まとめ「大学生になるとは？」 なりたいたい自分をイメージする。	・講義、全体進行…外部講師 ・グループワーク進行担当 …教職履修学生 * 1教室を、2~4名の大学3年生が担当 ・受付、誘導等運営補助 …「M@tsu. navi」を中心とした学生スタッフ ・全体企画運営 …キャリアセンター	<1クール目> 1月28日(日) 対象 …推薦入試、 AO入試合格者 <2クール目> 3月24日(土) (プレオリエンと同日) 対象 …一般入試、 センター利用 入試合格者 1月欠席者 遠方者
第2回	カウンセリング (1人40分程度)	自分の振り返りや目標を、カウンセラーに話してみよう。 * 参加者の話を受け止め、認め、自己肯定感を引き出す	外部キャリアカウンセラー (運営…キャリアセンター)	<1クール目> 2月中の金・土・日 <2クール目> 4月上旬(入学式前)
第3回	プレ・オリエンテーション (3時間程度)	・カリキュラムや、履修に関する説明 (・カリキュラムに関する個別相談)	教務課	3月24日(土)

『入学前教育』1/28集合セミナー 事後アンケート結果



- ・「とても」「まあ」を合わせると、各プログラムとも、プラス回答86%~92%という高いスコア。
- ・グループワークに対するマイナス回答が他学部と比較して多い。また、「とても」スコアも総じて、他学部と比較するとやや低目。男子学生が多いこと、目的意識・参加意欲が希薄な学生が他学部と比較して多いことの影響か。
- ・「先輩学生の体験談」のスコアが最も高く、下記の「役立ったこと」の結果を併せ見ても、モデル提示の重要性は明らか。

資料2 (個別のカウンセリング・シート サンプル)

【2007 入学前】 カウンセリング・シート カウンセラー氏名:

学部 () 受験番号 () 氏名 ()

【カウンセリング内容】 *参加者の言動と状況(具体的な事実ベース)、カウンセラーから伝えた内容を記入。

松本大学入学を控えた今の気持ち(不安、期待、その他)

・小学校からあまり勉強が好きでなかったため、大学での勉強についていけるか不安を感じている。

勉強は苦手意識があったが、高校の担任の先生と友人達に影響を受け、自分も大学に行きたい!と思うようになり進学を決めた。

・勉強とサークルの両立が出来るかどうか不安を感じている。

大学生になったらやってみたいこと(学内、学外)と、その理由

・高校時代にカウンセラーの仕事をしている人の話を聞く機会があり、心理学に興味を持った。人の気持ちがわかる人になりたいので、その分野の勉強をしてみたい。

・剣道部にはいって、一番を目指したい。

・将来の展望: 社会福祉士(親戚が介護関係の仕事をしている。非常にきつい仕事なので、自分にむいているか分からない)

カウンセラー(子供のケアをするような仕事に興味がある)

伸ばしたい自分の良さ、変えたい自分の欠点

・いつも物事を中途半端にしてきたので、自分に少しプレッシャーをかけて、しっかり勉強をやっていききたい。

一人暮らしをするので、通学時間もかからず勉強に集中できる環境だと思っている。

・高校時代は剣道をやってきたが、勉強からの逃避としてやっていたように思う。自分の弱さを克服したい。

【カウンセラーの感想】

・高校では剣道部でキャプテンを務めるなど、何かに集中して達成する意欲、一番になるために頑張る力がある。(大会でも上位の成績をとってきた)

その一方で、勉強に関しては強いコンプレックスを感じていることが、言葉の端々から感じられる。

いままで学校の勉強に興味を持てる分野が無かったことも一因と思われ、大学では興味を持ったこと(心理学など)を中心に履修してみることを薦めた。

・自分にピッタリはまるものに出会えば、非常に能力を発揮できる素質を持っていると思う。

勉強の分野での成功体験を得ることが、ひとつのキッカケになるのではないかな。

・年齢に比して落ち着いた雰囲気。そのためか、若干老成した感じがして、若いのに自分の可能性を信じていないようなところがある。これからの自分の生き方次第で、どんな風にも変わっていくことができることを、大学生活の中で実感させてあげられれば良いと思う。

中学校時代の部活の顧問を尊敬しているとのことで、良い師や先輩との出会いにより、新しいチャレンジ意欲やモチベーションを与える可能性がありそう。

【大学スタッフへの申し送り】

現時点では、特に気になることはなし。

資料3 『入学前教育』カウンセリング実施報告 ～実施報告書より抜粋**総合経営学部**

将来の進路のイメージは漠然としているものの、自分自身の体験から感じたことが、進学や学びへの動機付けとなっている学生が多い。そういう点では、学びの目的がある程度明確であるといえる。今後は、学生生活の中で視野を広げ、学びと将来の進路を結び付けて考えられるような働きかけが必要であろう。

<該当学科で学ぼうと思った理由>

- ① 将来就きたい仕事に役立つと思ったから
 - 例) 総合経営学科…起業、家業を継ぐ、事務系の仕事 等
 - 観光ホスピタリティ学科…社会福祉士、観光や旅行系の仕事、教員 等
- ② 学びの内容そのものに興味があったから
 - 例) 総合経営学科…経営、会計、マーケティング、パソコン 等
 - 観光ホスピタリティ学科…観光、福祉、環境、街づくり、地域
- ③ 大学4年間の中で、自分のやりたいことを考えたかった

～以下略～

以上

資料4 (キャリアアセスメントテスト 診断項目)**入学時の質問項目 (抜粋)**

- 進路に対する意識・・・進路選択に対する態度や意識の準備度合い
- 性格の傾向・・・ものごとの考え方や判断の仕方、対人関係などの傾向
- 問題解決のスタイル・・・学習をはじめとした問題解決に対する行動傾向
- 基礎学力・・・英語、日本語、判断推理
- 社会的強み・・・社会で求められる能力に関する現段階の強み
- 職業への興味・・・仕事の種類や質、スタイルについての志向

3年次の質問項目 (抜粋)

- 好きな仕事の分野・・・興味を持っている仕事の分野
- 選職志向性・・・仕事に対して求める条件や価値観
- 性格の傾向・・・仕事に活かせる性格の傾向
- 適性職種系・・・「社会的強み」と「能力の強み」から判断される適性職種系
- 社会的強み・・・社会人としての態度の強み
- 能力の強み・・・実務的な能力の強み
- 就職活動へのレディネス・・・就職活動に関する準備状況
- 進路成熟度・・・進路意識の進み具合

資料5 (就職支援バスツアー企画概要 平成18年度)

1. 実施目的

- ① 「前期就職支援ガイダンス」内容の総まとめとして、他者との対話や相互体験などを通して、自分自身の考えを整理し、広げ深める。
- ② ①を行う上で、実際の企業現場、企業の方や先輩との交流等、座学ではできない生の体験・情報に接する。

2. プログラム *東京コースの例

日 程	内 容
8月30日 AM	企業訪問(就職活動時「会社訪問」のプレ体験)
8月30日PM①	就職セミナー・全体講義(面接の心構え、ポイント)
8月30日PM②	就職セミナー・面接体験講座(企業の人事担当者による模擬面接)
8月31日 AM	内定者体験報告・相談会(4年生による就職活動報告と相談対応)
8月31日 PM	外部就職関連イベント見学

* 1コースあたり約40人の学生が参加。

東京コース、県内コースの2タイプ、計4～5コースを実施。

資料6 (就職支援バスツアー実施後の振り返り ～平成18年度の実施報告書より抜粋)

□ 学生の事後アンケート結果

各プログラムごとの「興味深く真剣に取り組めた」度合い(5段階、最高5)

	東京コース 平均	東京コース 昨年	県内コース 平均	県内コース 昨年
(1)企業訪問	3.7	3.6	3.6	3.5
(2)就職セミナー・全体講義	3.8	3.6	3.7	3.8
(3)就職セミナー・面接体験講座	4.5	4.7	4.4	4.5
(4)内定者報告会・質問会	4.0	4.5	4.0	4.4

□ 各プログラムの有効性と課題

- ① 参加型であり、座学ではできない生の体験・情報・他者の視点や考えに接することで、学生が自分自身を相対化、客観化することができる。
⇒就職意欲の高まりや、視野を広げることの一助となる
- ② その一方で、参加者の目的意識、取り組み意欲の度合いにより、得るものや達成感が変わってくる。このツアーまでに、どれだけ参加者の主体性、参加意欲を高められるかがポイントとなる。

資料7 (キャリアセンター発行の情報誌「キャリアセンター通信」より)

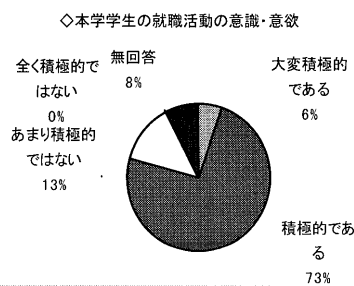
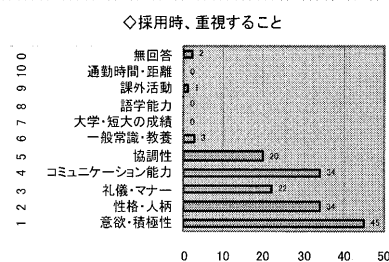
3月1日(木)学内合同企業説明会が開催されました!

本学では年に4回(短大のみ1回、4大のみ1回、短大・4大合同のものが2回)学内の合同企業説明会を開催しています。もう1ヶ月以上前のこととなりますが、2008年3月卒業予定者を対象とした学内合同企業説明会(短大・4大合同)を3月1日に開催しました。今回の説明会には短大2年生、4大4年生合わせて約200名が参加、集まった企業数は県内企業を中心に56社と過去最高でした。この数から、企業側の本学学生に寄せる期待感が窺えます。

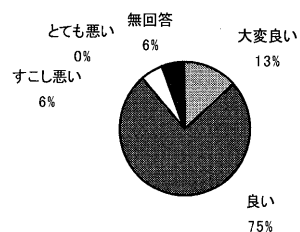
当日の会場内では、緊張しながらも真剣に企業の方の話に耳を傾け、メモを取る姿があちらこちらで見受けられました。こういった学内の合同企業説明会が内定までつながっていくケースも毎回あり、企業側も学生側もまさに真剣勝負といった雰囲気でした。

当日、参加企業に実施したアンケート結果を下記に掲載しました。ご参考までにご覧下さい。

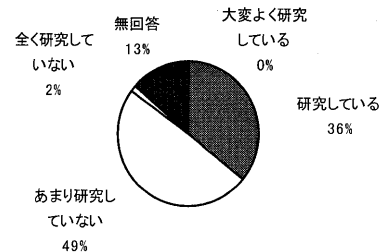
～ 3/1学内合同企業説明会参加企業アンケート結果より ～



◇本学学生の礼儀・マナー・身だしなみについて



◇本学学生の企業研究について



◇必要とするスキル・資格

普通免許(17社)、PC基礎能力(7社)、語学力(3社)、簿記(2社)と具体的に挙げる企業がいる一方、「特になし」との回答も12社ありました。

◇求める人物像

多くの回答が寄せられ、ここですべてを掲載することはできませんが、キーワードとして「明るく元気」「積極的」「やる気・意欲がある」「コミュニケーション能力」を挙げる企業が多数ありました。

回答数：53社



↑第一体育館で行われた当日の様子